

# 尖石遺跡

——保存整備事業に係る試掘調査報告書——

1994

茅野市教育委員会

# 尖石遺跡

——保存整備事業に係る試掘調査報告書——

1994

茅野市教育委員会

## はじめに

茅野市には300以上もの遺跡が発見されていますが、その多くが縄文時代の中でも中期と呼ばれる時期のものです。それらの遺跡の多くは八ヶ岳山麓の中でも標高1,000m前後に位置しており、その代表的な遺跡が国の特別史跡に指定されている豊平地区の尖石遺跡です。

永年、地権者の皆さんや地元の方々の理解と熱意によって、保存されてきましたが、近年の開発はついに尖石遺跡の周辺にも及んできました。そこで、茅野市は、このすばらしい郷土の文化遺産を保存し、後世に受け継ぐべく昭和62年度から国・県のご援助をいただき、尖石遺跡の公有地化を行い、平成2年度からは引き続き保存整備事業に着手しました。

保存整備事業の一環として行われている試掘調査は、尖石遺跡の整備計画を作成していく上での基礎的な調査として実施されているものであります。今年度はその試掘調査も4年目を迎え、これまで調査の及んでいなかった遺跡北東側を中心に、十数軒に及ぶ住居址を発見するなどの多くの成果を得ることができました。

また、この試掘調査と並行して行われている基本計画の作成も着々と進んでおります。今後も史跡整備に一層の努力をして参る所存でありますので、皆様の一層のご協力をお願い致します。

最後に、事業の実施にあたってご指導いただいた文化庁、長野県教育委員会をはじめ、調査に参加された関係者の皆様に対し、深甚なる感謝を申上げます。

平成6年3月

茅野市教育委員会  
教育長 両角 昭二

## 目 次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 第Ⅰ章 調査の目的 .....    | 3  |
| 第Ⅱ章 調査の方法と経過 ..... | 3  |
| 第Ⅲ章 遺跡の層序 .....    | 9  |
| 第Ⅳ章 遺構と遺物 .....    | 11 |
| 第Ⅴ章 まとめ .....      | 19 |

## 例言・凡例

1. 本書は、特別史跡尖石遺跡保存整備事業に係る試掘調査報告書である。
2. 試掘調査は、国庫及び県費の補助を受け、茅野市教育委員会が実施した。
3. 試掘調査は、平成5年5月27日から7月2日まで行った。  
整理作業は、平成5年12月2日から平成6年3月31日まで行った。
4. 出土品の整理及び報告書の作成は、尖石考古館で実施した。整理作業にあたっては、尖石考古館の小平泰館長をはじめ、職員の協力を得た。  
本報告書に係る出土品・諸記録は、尖石考古館に保管されている。
5. 木報告書の執筆は、小林深志が行った。
6. 本文中、挿図の平面図において、方位の入っていないものは上が北である。
7. 本文中において層序番号に数字を用いたが、挿図においては造構内の覆土に数字を用い、基本層序にはアラビア数字を用いた。
8. 出土上器の復元は関喜子、小松とよみ、矢崎つな子、原敏江、藤森栄子の各氏の協力による。
9. 調査の体制

本調査は茅野市教育委員会茅野市文化財調査室が実施した。組織は以下の通りである。

|              |       |                           |       |       |       |       |
|--------------|-------|---------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 調査主体者        | 西角昭二  | (茅野市教育委員会教育長)             |       |       |       |       |
| 事務局          | 原 光   | (茅野市教育委員会教育次長)            |       |       |       |       |
|              | 水田光弘  | (茅野市教育委員会文化財調査室長)         |       |       |       |       |
|              | 鶴岡幸雄  | (茅野市教育委員会文化財調査室係長)        |       |       |       |       |
|              | 西角一太  | (茅野市教育委員会文化財調査室主任)        |       |       |       |       |
|              | 大月三千代 | (茅野市教育委員会文化財調査室主事補)       |       |       |       |       |
| 調査担当         | 守矢昌文  | (茅野市教育委員会文化財調査室主任)        |       |       |       |       |
|              | 小林深志  | (茅野市教育委員会文化財調査室指導主事) 調査担当 |       |       |       |       |
|              | 小池岳史  | (茅野市教育委員会文化財調査室主事)        |       |       |       |       |
|              | 功刀 司  | (茅野市教育委員会文化財調査室主事)        |       |       |       |       |
|              | 百瀬一郎  | (茅野市教育委員会文化財調査室主事)        |       |       |       |       |
|              | 小林健治  | (茅野市教育委員会文化財調査室主事)        |       |       |       |       |
|              | 柳川英司  | (茅野市教育委員会文化財調査室主事)        |       |       |       |       |
| 調査補助員        | 赤堀彰子  | 伊藤千代美                     | 牛山市弥  | 牛山徳博  | 占部美恵  | 小松とよみ |
|              | 関 喜子  | 武居八千代                     | 原 敏江  | 堀内 澄  | 矢崎つな子 | 矢鳴恵美子 |
| 発掘調査・整理作業協力者 | 芦田孝子  | 伊藤京子                      | 牛山みつ江 | 岡 和宣  | 小平千恵子 | 小平ツギ  |
|              | 小平房江  | 小平フサ子                     | 小平三行  | 小平ヤエコ | 小平義市  | 白護スエ子 |
|              | 武田けさ子 | 田中洋二郎                     | 立岩貴江子 | 長田 真  | 藤森栄子  | 目黒恵子  |

## 第Ⅰ章 調査の目的

特別史跡尖石遺跡は、指定地の用地買上げが終わった翌年の平成2年度から、保存整備事業のため継続して試掘調査が行われ、今年度で4年目を迎えることとなった。過去3年間の調査については、それぞれ試掘調査報告書が刊行されている。

今年度は、遺跡の北東の端を見極める調査を主体にすることとした。この地区は、平成3年度に調査を行った遺跡北西部の東側にあるが、北西部の調査において縄文時代中期の前半の住居址が2軒検出されているため、その続きが検出される可能性があった。この北東部もかつて一度も調査が行われていない箇所である。また、遺跡中央部の広場と考えられている箇所についてもさらに遺構の検出を行った。

## 第Ⅱ章 調査の方法と経過

### 第1節 調査の方法

平成2年度に試掘調査を開始するにあたって、尖石遺跡全体を大きく4つに分け、北西隅をI区とし、時計回りにII区・III区・IV区と区画の名称をついている。その各区画ごとに遺跡範囲の全体を覆うように東西南北にあわせて大きく10m四方の大きな正方形のグリッドで区切り(大グリッド)、x軸を大文字のアルファベット、y軸を数字で呼称している。さらにその大グリッドを2m四方の小さなグリッド(小グリッド)としてx軸を小文字のアルファベット、y軸を数字で表し、A1a1のように小グリッドの1つ1つに名前を付ける作業を行ってある。

今回調査の対象としたのは、遺跡の北東部にあるII区とその南に隣接するIII区の一部である。掘り下げにあたっては、住居址の検出が行えるよう、2mの小グリッドを1つおきに掘り下げて行く方法を取った。また、遺跡全体の地形を見るために、計画的に東西方向及び南北方向に一列に掘り下げて行くこととし、必要に応じて新しく調査区を設けることとした。

### 第2節 調査の経過

5月25日(火)晴れ

本年度調査予定範囲の基準点測量及び杭打ちを行う。

5月26日(水)晴れ

杭のB・M設定。B9=1,059,884m、E9=1,061,605m、I9=1,061,400m、B14=1,060,142m、B1=1,061,256m、B3=1,062,430m。

5月27日(木)晴れ

調査は道路南側の遺跡中央部分を、北側のグリッドから掘り下げを開始する。北側に傾斜する斜面となっており、北側はドローム面までの深さがあるようである。II区 A13c4グリッドからは小型の有孔鋤付土器破

片の出土があった。また、II区 A14e3 グリッドからは石礫が2点出土している。

5月28日（金）晴れ

昨日から継続して掘り下げを行う。

II区 A14e3 では地表面から約30cmの所から径30cm前後の礫が出土したが、土器の出土もほぼ同じレベルで多数出土している。また、打製石斧の出土もあった。

III区 A1e1、A1e3、A1e5、A2e2、A2c4 グリッドは、表土層下がただちにローム面となっている。耕作による歓の搅乱がローム面に至っているが、III区 A1e5 グリッドの南東と、A2e2 グリッドの北東から住居址と考えられる掘り込みが検出された。同一の住居址の掘り込みと考えられる。

5月31日（月）曇り後晴れ

III区 A3e1 グリッドの南西隅と A3e3 グリッドの北西隅に同一の住居址と考えられる掘り込みが検出された。また、A3e3 グリッドの南西隅にも違う住居址と考えられる掘り込みがみられるが、南壁際に沿って塩ビパイプを埋設するために掘られた溝によって一部破壊され、プランの検出を難しくしている。

以上のグリッドの掘り下げを午前中で終了し、午後から道路北側の遺跡の北東隅にあたる調査区の調査に入る。

C6e1 グリッドからは遺物の出土が多く、磨製石斧破片・大型の土器片もある。C6c1 グリッドは遺物の出土は多かったが、遺構の検出はなく掘り下げを終了した。C5e2、C5e4 の 2 グリッドは遺物の出土も少なく、遺構の検出もないまま掘り下げを終了する。C6e1、C6e3、C6e5 の 3 グリッドは遺物の出土は多いが掘り下げ途中であり、遺構の検出までに至っていない。

6月1日（火）晴れ

C6a1 グリッドは南西隅にローム面が表れたが、ほとんどが住居址覆土となるよう、北東隅から一括土器、西壁近くから大型の破片が出土する。C6e3 グリッドからは一括土器の出土もあった。C7e2 グリッドは 20cm ほどの表土を掘り下げるとき褐色色の土層となりローム面かと思われたが、数 cm の厚さで黒色土となる。今の所遺物の出土が少ないため、この層の堆積時期等は不明である。

6月2日（水）曇り

C6e1 グリッドは、土器・石器が多数出土し、住居址になると思われるがプランがはっきりしない。北東隅にやや暗褐色気味の土層が表れたが、遺物や炭化物を含んでおり、壁際の土層にあたる可能性もある。C6e3 グリッドで検出されている住居址とは覆土がかなり異なっているため、同一の住居址とは考えにくい。C7e4 グリッドは北西隅と南東隅の 2ヶ所で掘り込みが確認された。

6月3日（木）曇り時々雨

C8e1 グリッドは礫の入る土坑となる。C8e5 グリッドは遺構は検出できなかったが、北東隅から大礫が出土している。東西に塩ビパイプを埋設するために掘られた溝が検出されている。D8b1 グリッドは北東隅で住居址と思われる掘り込みが検出されたが、北西隅でも掘り込みが検出され、重複しているのではないかと考えられる。D8d1 グリッドは西半分に D8b1 グリッドに続くと考えられる掘り込みが検出された他、北東隅でも別の遺構が検出されている。E8a1 グリッドと E8c1 グリッドでは同一の住居址になると考えられる掘り込みが検出されている。E8e1 グリッドは遺構は何も検出されなかった。E7e4 グリッドは掘り下げ途中である。D6b1 グリッドは土坑が 3 基検出された。そのうちの一つからは一括土器が出土している。また、どの土坑にも拳大の礫が見られる点が共通している。

6月4日（金）曇り時々雨

D6d1グリッドは南西隅で土坑が検出された。E6c1グリッドは北側で土坑が検出された。E6e3グリッドは網文土器の大型破片が出土しており、造構となる可能性があるが、ローム面に至っていない。E7e2グリッドは精査を行っていないが、南東隅に広がる住居址となる可能性がある。E7e4グリッドでは造構のプランが検出できていないが遺物の出土は多く、E7e2グリッドと同一の住居址になるのではないかと考えられる。E8e3グリッドは南東隅に住居址になると考えられる掘り込みが検出された。また、同一の住居址と考えられる掘り込みがE8e5グリッドの北東隅でわずかに検出されている。このE8e5グリッドでは北側で土坑も検出されている。E9e2グリッドは、北東隅に広がる住居址となるのではないかと考えられる。この造構はE8e5グリッドにまでは延びていない。E6a1、E6e5の両グリッドは、ローム面に至っておらず、米週掘り下げを行う予定。造構の検出されなかったグリッドは、今の所E8e1グリッドだけである。

6月7日（火）晴れ

D6d1、E6a1、E7e2、C8a1、C8c1、C8e1、D8b1、D8d1グリッドの再精査を行い、ローム面での造構の検出を行う。

D6d1グリッドの北東隅とE6a1グリッドの北西隅で同一の住居址と考えられる掘り込みが検出された。E6e1グリッドでは造構の検出はなかったものの、E6e3グリッドでは住居址の中央を掘り下げてしまったりしく、一括土器の出土が多く見られた。E6e5グリッドではその住居址のプランと考えられる掘り込みが検出されている。C8a1、C8c1グリッドは造構の検出はなかったが、少量の遺物の出土があった。北壁の土層観察を行う。C8c1グリッドは理の出土していたところに掘り込みのあったものがなくなってしまった。D8b1、D8d1グリッドではそれぞれ2軒の住居址の重複が確認されたが、2軒となるのか3軒となるのかは不明である。F8b1グリッドは南東隅にロームブロックの多く混じる楕円土を持つ掘り込みが検出されたが、遺物の出土はなかった。F8d1グリッドはかなり浅いところで住居址床面が出来てしまい、埋甕が出土した。また、柱穴も2個検出された。G8a1グリッドでは南壁際の浅いところから一括土器が出土した他、北東で長方形を呈する石圓が現れた。F8D1、G8a1グリッドとも掘り込みプランは検出されていない。G8c1グリッドは北東で土器や礫が出土し、そこが上坑状の掘り込みになる可能性もあるが、現時点では不明である。

6月8日（水）曇り

また、C6e3、C6e5、C7e2、C7e4グリッドの再精査を行い、ローム面での造構の検出を行う。

C6e3グリッドは住居址プランを確認していたグリッドであるが、精査の結果住居址ではなくなった。C6e3グリッドは造構なし、C7e2、C7e4グリッドではそれぞれ2基の土坑を検出した。G7e4、G8e1グリッドでは同一の住居址と考えられる掘り込みを検出している。H8d1グリッドからは曾利IV～V式土器を多く出土し、プランの検出はできていないものの住居址となる可能性が高い。

6月10日（木）晴れ後雨、2時過ぎに解散とする。

II区の掘り下げを継続して行う。

各グリッドの土層観察。

6月11日（金）晴れ

II区の掘り下げを継続して行う。

グリッド掘り下げ作業をほぼ終了する。

各グリッドの土層観察。

6月14日（月）曇り時々雨、蒸暑い

南北セクションの上層観察を行う。

C ライン東壁の土層断面図作成。E ライン東壁の土層断面図作成。

6月15日（火）曇り後雨

E ライン東壁の土層断面図作成。

E 8a5グリッドを新たに設定し、掘り下げを開始する。

午前中から雨が降ったり止んだりの天候であったが、一時強くなったため、午後は遺物の洗浄を行う。

6月16日（水）晴れ

E ライン東壁の土層断面図作成。

8 ライン北壁の土層断面図作成。

6 ライン北壁の土層断面図作成。

E 8a5グリッドの掘り下げを継続して行う。まだプランの確認には至っていないが、土器が多数出土した他、打製石斧が3本と黒曜石コアが出土するなど、遺構になる可能性が高い。

6月17日（木）晴れ

E 8a5グリッドの掘り下げ終了。土坑が数基検出された。

遺構・遺物の検出された各グリッドを清掃し、写真撮影を行う。

6月18日（金）曇り

8 ライン北壁の土層断面図作成。

H ライン東壁の土層断面図作成。

6 ライン東壁の土層断面図作成。

遺構・遺物の検出された各グリッドを清掃し、写真撮影を行う。

6月21日（月）晴れ

6 ライン東壁の土層断面図作成。

遺跡中央部のIII区 A ラインの土層断面図作成。

6月22日（火）晴れ

遺跡北東部の遺構を検出したグリッド及び遺物を出土したグリッドの平面図作成。

6月24日（木）晴れ

II・III区 A ライン土層断面図作成。

遺跡中央部の平面図作成と写真撮影。

遺跡北側の平面図作成。

6月25日（金）晴れ

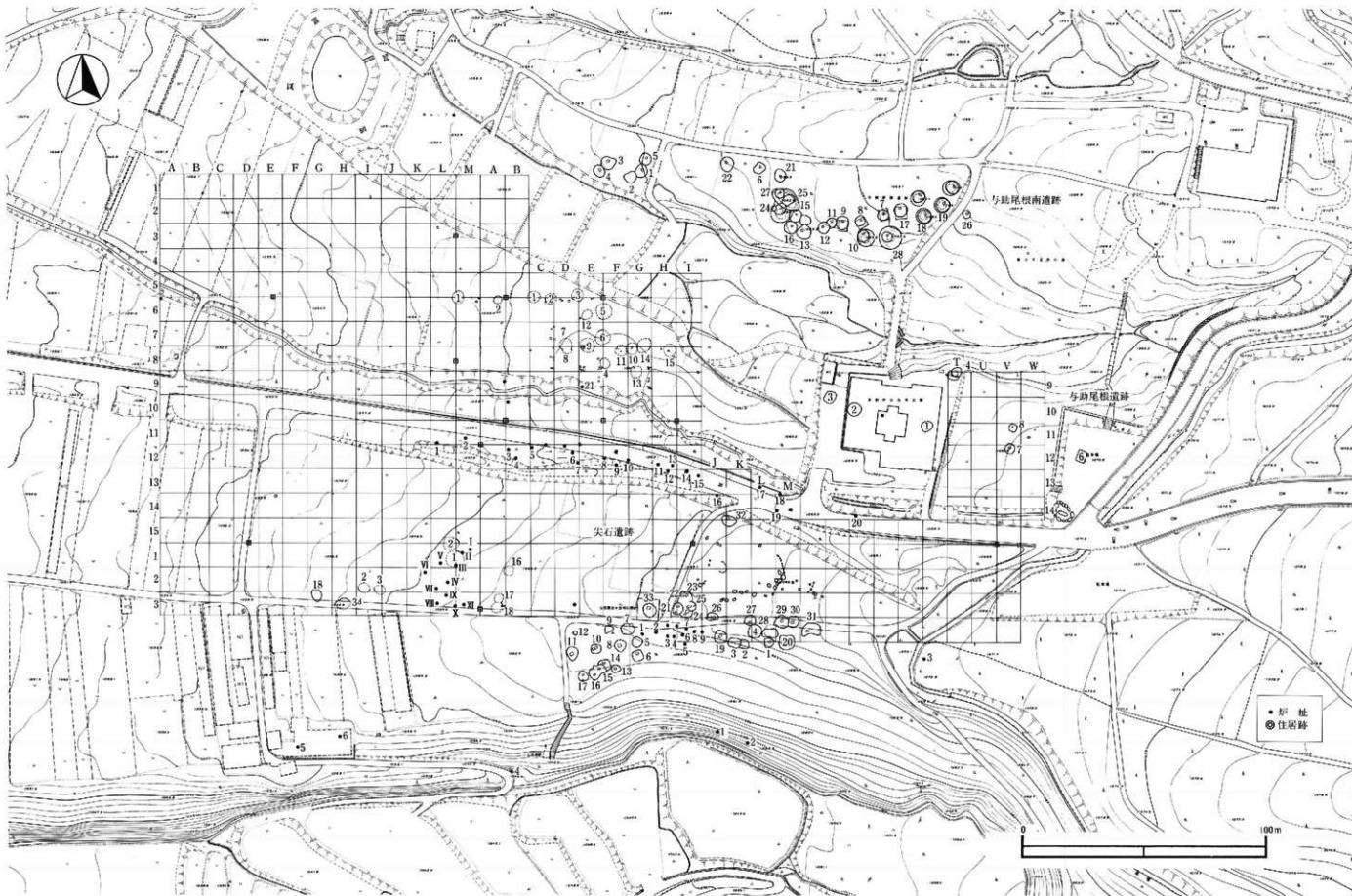
遺跡中央部の平面図コンタ計測。

遺跡北側の遺物取上げ。

発掘グリッドの埋め戻し作業を開始する。

7月5日（金）晴れ

遺跡内の埋め戻し作業をすべて終了する。



第1図 遺構分布図 (1/1,500)

## 第III章 遺跡の層序

昨年の調査において、尖石遺跡の基本層序の検討が為されているので、それにそって簡単に記す。

### 第1a層 暗褐色土 (10YR 3/3)

地表面下10cmほどまでは粒子は粗く、徐々に粒子が細かくなる。繊りは全体ではなく、粘性もない。1mm以下のローム粒子を稀に含み、ロームブロックの混入はない。3mm程度の炭化物・礫を稀に含む。

### 第1b層 暗褐色土 (10YR 4/4)

繊り、粘性ともにあまりない。粒子は細かく、ローム粒子を多量に含む。

### 第2層 黒褐色土 (10YR 2/2)

粒子は細かく、縮っているが、粘性はあまりない。1mm以下のローム粒子を稀に含む。

### 第3層 黒褐色土 (10YR 2/3)

粒子は細かく、よく縮っているが、粘性はない。1mm以下のローム粒子を稀に含むが、ロームブロック・炭化物・礫は見られない。

### 第4層 暗褐色土 (10YR 3/4)

粒子は細かく、よく縮っているが、粘性はない。1mm以下のローム粒子を多量に含み、3mmほどのロームブロックも少量含む。稀に3mm大の炭化物粒子を含むが、礫の混入はない。

C7e2グリッドで確認された表土の下にある暗褐色土は、それより南で広く確認されているが、昨年遺跡の東を調査した小林健治調査員によると同様の層が東側に見られ、1b層とした上層であることが確認された。なお、遺跡の中央にはこの土層は堆積していないようである。

遺跡中央部は2層は無いとされていたが、極薄いながらも存在することが確認された。また、南側においては3層とローム漸移層である4層の層界が明瞭であることから、耕作を行う際にローム層を削平していることが考えられる。

## 第IV章 遺構と遺物

### 第1節 住居址

本遺跡からはII区、III区合せて18軒の住居址が検出された。特に北側のII区では、予想をはるかに上回る15軒が検出されている。

#### 住居址1 (第4図、図版2-1~3)

II区C6a1、C6c1で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は径500cmほどになると思われる。C6a1の南に僅かに掘り込みが確認された関係で、覆土をかなり深く掘り込み、一括土器を含む多くの遺物を取上げることとなった。本遺構の時期は出土遺物から中期中葉の藤内式期になると考えられる。(図版6-5・6、7-1~4)

#### 住居址2（第4図、図版2-3-5）

II区C6c1で掘り込みが検出されたことにより、命名した。掘り下げを行ったC6e1は住居址内になると考へられるが、C5e4、C6e3は遺構外になると考へられるため、径450cmほどの規模になると思われる。C6e1が住居址プランの中になっていたため、かなり深く掘り込んでしまい、一括土器を含む多くの遺物を取上げることとなった。本遺構の時期は出土遺物から中期中葉の藤内日式期になると考へられる。（図版7-5・6、8-1-6）

#### 住居址3（第4図、図版2-7-8）

II区D6d1、E6a1で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は径450cmほどになると思われる。遺物の出土はあるものの、量はごく僅かであるため、時期は不明とせざるをえない。

#### 住居址4（第4図、図版3-1-2）

II区E8e3、E8e5で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は径400cmほどになると思われる。両グリッドからは中期初頭と中期後半の遺物が出土しており、本遺構の時期については不明とせざるをえない。

#### 住居址5（第4図、図版3-3-4）

II区E6e5で掘り込みが検出されたことにより、命名した。E6e3は住居址内と考えられるが、掘り込みは検出されなかったことから、規模は500-600cmの間になるものと思われる。E6e3が住居址プランの中になっていたため、かなり深く掘り込んでしまい、一括土器を含む多くの遺物を取上げることとなった。本遺構の時期は出土遺物から中期中葉の藤内日式期になると考へられる。（図版9-1-6）

#### 住居址6（第4図）

II区E7e2で周溝が検出されたことにより、命名した。E7e4は住居址内と考えられるが、掘り込みは検出されなかったことから、規模は600cmほどになるものと思われる。E7e4で覆土をかなり掘り込んでいるはずであるが、遺物の量は少ない。出土した上器の多くは曾利I式のものであるが、曾利の後半の遺物も少量含まれており、本住居址の時期は不明とせざるをえない。

#### 住居址7・8（第5図、図版3-5-6）

II区D8b1、D8d1で掘り込みが検出されたことにより、命名した。住居址8も同グリッドで検出されている。覆土の切り合ひ関係から、住居址7の方が古いと考えられる。住居址の規模は、住居址7が550cmほど、住居址8はやや小さく400cmほどになると思われる。両グリッドからは、量は少ないものの井戸尻I・II式、井戸尻III式～曾利I式の土器が出土している。住居址の新旧関係から古いと考えられる住居址7を井戸尻I・II式、新しいと考えられる住居址8を井戸尻III式～曾利I式の時期と考えておきたい。

#### 住居址9（第5図、図版3-7）

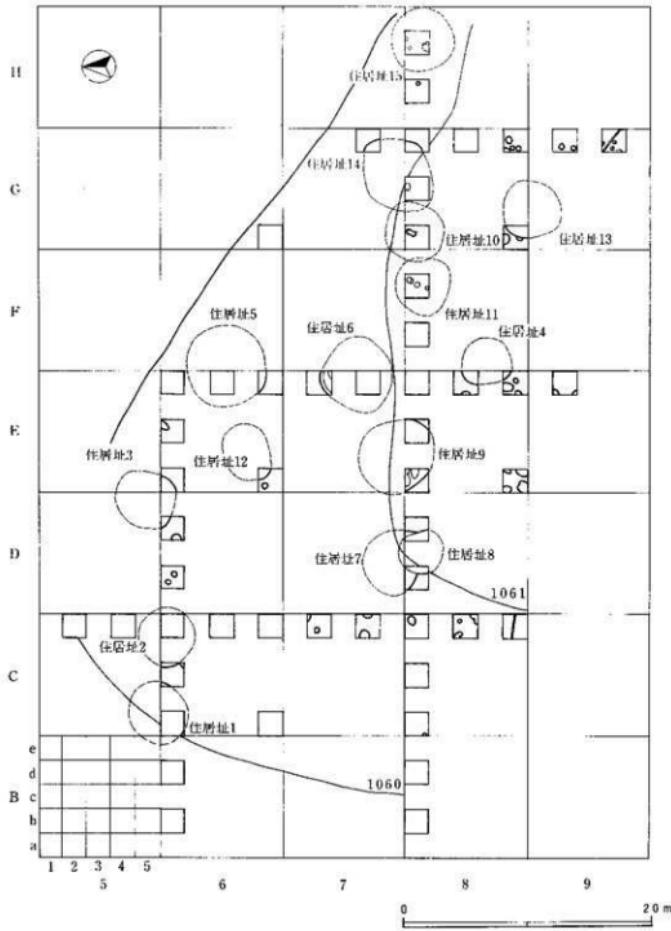
II区E8a1、E8c1で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は600cmをやや超えるものと思われる。本住居址の時期は、遺物の出土は少ないものの出土した上器から、曾利I式期と考えておきたい。

#### 住居址10（第5図）

II区G8a1で石臼炉が検出されたことにより、命名した。規模はF8d1、G8c1までは及んでいないと考えられるため、500cm前後になると思われる。本住居址の時期は、出土した上器から曾利I式期と考えられる。（図版10-1・2）

#### 住居址11（第5図）

II区F8d1で煤窯炉と柱穴が検出されたことにより、命名した。規模はF8b1、G8a1までは及んでい



第2図 発掘区と遺構の分布(1) (1/400)

ないと考えられるため、450cm前後になるものと考えらえる。本住居址の時期は、埋葬炉に用いられた土器から、井戸尻1・II式期と考えられる。(図版10-3)

#### 住居址12(第5図)

II区E6a5で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は明らかにできないが、500cm前後になるのではないかと思われる。本住居址の時期は、遺物の出土は少ないものの出土した土器から、藤内I式期と考えておきたい。

#### 住居址13(第6図、図版4-7)

II区G8a5で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は明らかにできないが、500cm前後になるのではないかと思われる。遺物は井戸尻III式のものが僅かに出土しているだけで、本住居址の時期を明ら



第3図 発掘区と遺構の分布(2) (1/400)

かにすることは出来ないが、一応中期中葉と考えておきたい。

#### 住居址14(第6図、図版5-1-3)

II区G7e4、G8e1で掘り込みが検出されたことにより、命名した。同住居と考えられる柱穴がG8c1で検出されているが、そこで掘り込みが検出できていないことから、規模は600cmを超えるのではないかと思われる。遺物は3グリッドに及んでいるものの、出土した量はごく僅かである。本住居址の時期については、復元できた浅鉢から、藤内I式期と考えられる。(図版10-4)

#### 住居址15(第6図、図版5-4)

II区H8d1で石圓炉が検出されたことにより、命名した。本住居址の時期は、出土した土器から曾利IV式期と考えられる。(図版10-5・6)

#### 住居址16(第6図、図版5-7・8、6-1)

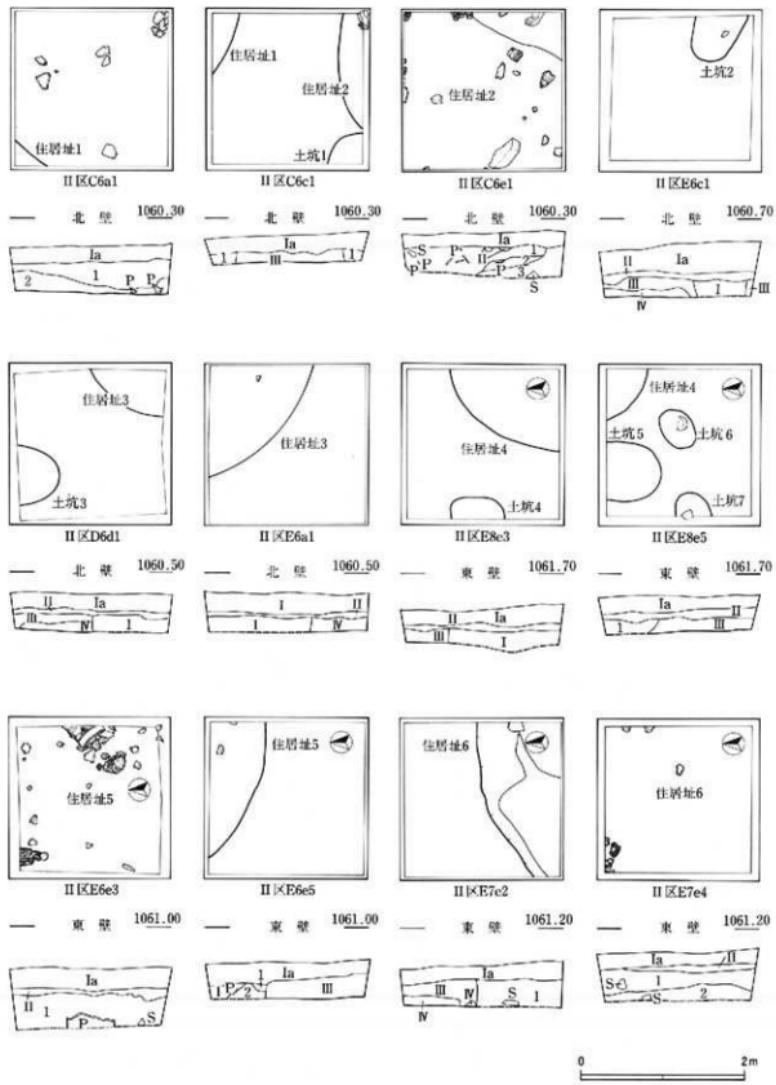
III区A1e5、A2e2で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は400cm前後になるものと思われる。本住居址の時期は、出土した遺物が少なく、土器の時期も藤内と曾利が出土しているため、不明とせざるをえないが、いずれにしても中期のものであろう。

#### 住居址17(第6図、図版6-2-4)

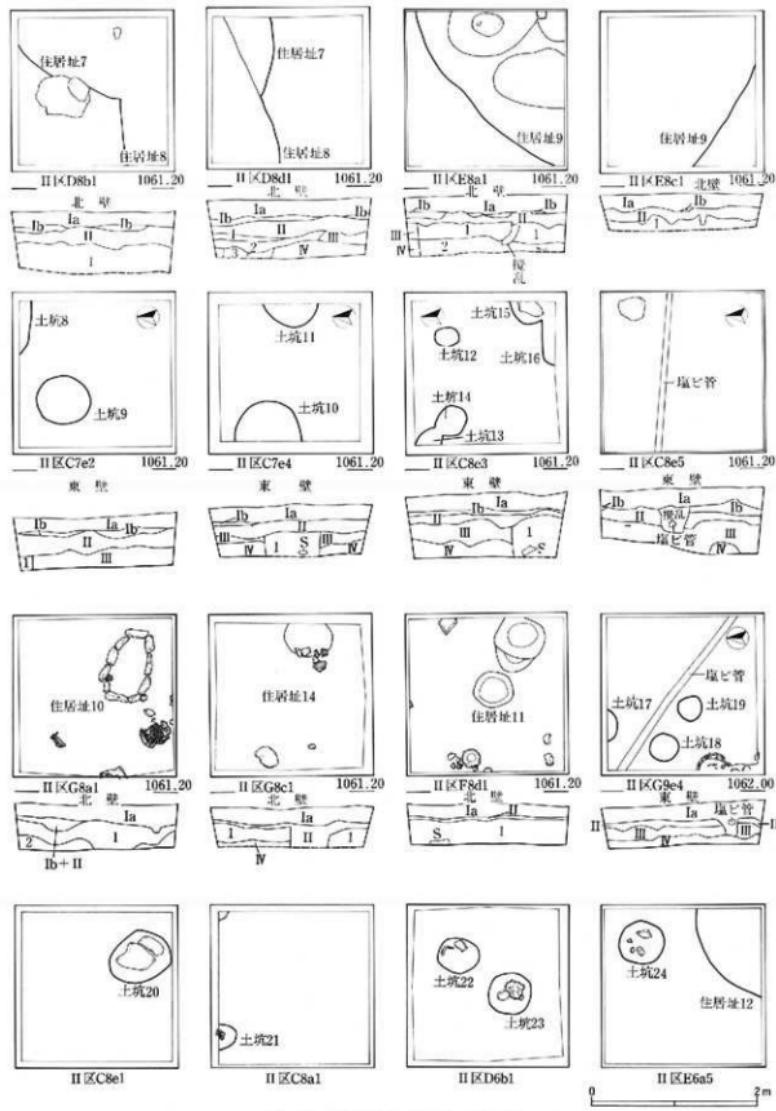
III区A3e1、A3e3で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は350cm前後になるものと思われる。本住居址の時期は、遺物の出土が少ないので明らかに出来ないが、中期の後半になるものと考えられる。

#### 住居址18(第6図、図版6-2-4)

III区A3e3で掘り込みが検出されたことにより、命名した。規模は350cm前後になるものと思われる。本住居址の時期は、遺物の量が少なく、不明とせざるをえない。



第4図 検出された造構 (1/60) (1)



第5図 検出された遺構 (1/60) (2)

## 第2節 土坑

上坑は全部で40基が検出されている。遺構検出面で遺物を見たものもあるが、振り下げていないため、ほとんどの土坑は性格や時期が不明である。

### 土坑1（第4図、図版2-3）

II区C6c1で検出された。平面形は円形になるものと考えられる。規模は不明。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑2（第4図、図版2-6）

II区E6c1で検出された。やや細長い形状を示すものと考えられる。規模は不明。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑3（第4図、図版2-7）

II区D6d1で検出された。やや細長い形状を示すものと考えられる。規模は不明。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑4（第4図）

II区E8e3で検出された。平面形は円形になるものと考えられる。規模は不明。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑5（第4図、図版3-2）

II区E8e5で検出された。やや細長い形状を示すものと考えられる。規模は不明。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑6（第4図、図版3-2）

II区E8e5で検出された。長径52cm、短径38cmほどの楕円形を呈する。確認面で礫の出土があったが、時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑7（第4図）

II区E8e5で検出された。ほぼ円形を呈するものと考えられる。規模は不明。確認面で礫の出土があったが、時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑8（第5図、図版3-8）

II区C7e2で検出された。検出面積が少なく、形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑9（第5図、図版3-8）

II区C7e2で検出された。径65cmほどの円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑10（第5図、図版4-1）

II区C7e4で検出された。ほぼ円形を示すものと考えられる。規模は不明。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑11（第5図）

II区C7e4で検出された。ほぼ円形を示すものと考えられる。規模は不明。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 土坑12（第5図）

II区C8e3で検出された。長径30cm、短径25cmの楕円形を呈する。規模は不明。時期を明らかにできる遺

物の出土はなかった。

#### 土坑13（第5図）

II区C8e3で検出された。やや細長い形状を示すものと考えられる。規模は不明。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑14（第5図）

II区C8e3で検出された。長径40cm、短径30cmの楕円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑15（第5図）

II区C8e3で検出された。形状・規模は明らかでない。確認面で礫の出土があったが、時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑16（第5図）

II区C8e3で検出された。形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑17（第5図、図版4-2）

II区G9e4で検出された。形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑18（第5図、図版4-2）

II区G9e4で検出された。径33cmの円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑19（第5図、図版4-2）

II区G9e4で検出された。径30cmの円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑20（第5図）

II区C8e1で検出された。長径75cm、短径60cmの楕円形を呈する。確認面で礫が出土しているだけで、時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑21（第5図、図版4-4）

II区C8a1で検出された。形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑22（第5図、図版4-5）

II区D6b1で検出された。長径50cm、短径45cmの楕円形を呈する。確認面で縄文時代中期階沢期の土器底部が出土している。

#### 土坑23（第5図、図版4-3）

II区D6b1で検出された。径50cmの円形を呈する。確認面で平出三Aの上器片が出土しているので、中期前半になるものと考えられる。

#### 土坑24（第5図）

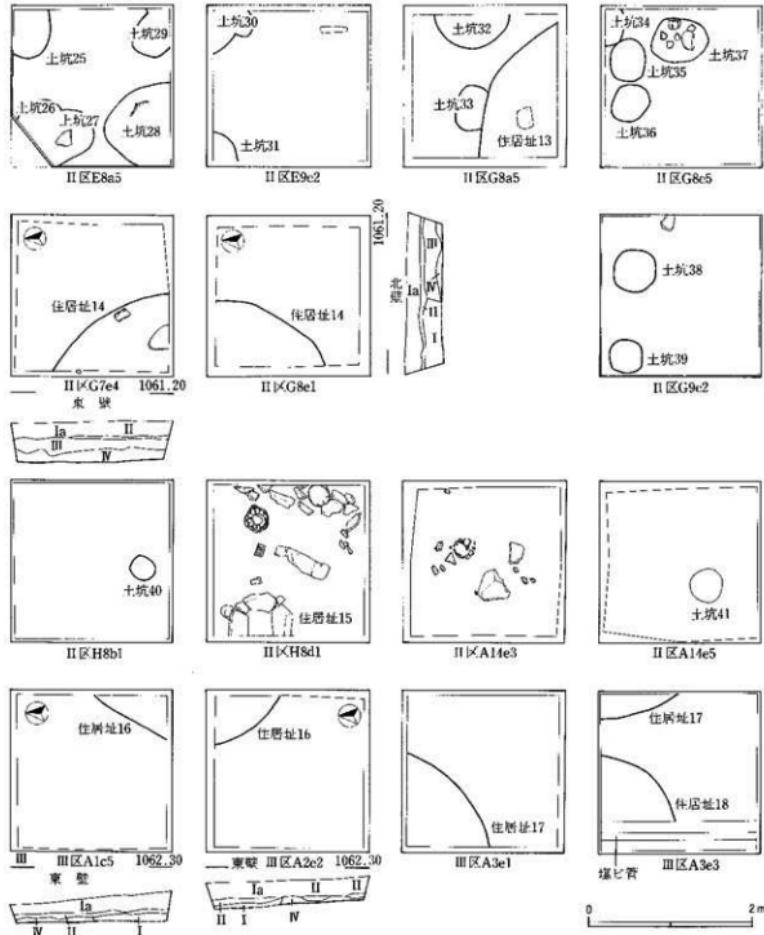
II区E6a5で検出された。径50cmの円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかったが、確認面で四石が出土している。

#### 土坑25（第6図、図版4-6）

II区E8a5で検出された。形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

#### 土坑26（第6図、図版4-6）

II区E8a5で検出された。形状・規模は明らかでない。土坑27と重複する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。



第6図 検出された遺構 (1 / 60) (3)

**土坑27 (第6図、図版4-6)**

II区E8a5で検出された。形状・規模は明らかでない。土坑26と重複する。確認面で礫が出土しているだけで、時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑28 (第6図、図版4-6)**

II区E8a5で検出された。形状・規模は明らかでない。確認面で中期後半の土器片が出土している。

**土坑29 (第6図、図版4-6)**

II区E8a5で検出された。形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑30 (第6図)**

II区E9e2で検出された。形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑31 (第6図)**

II区E9e2で検出された。形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑32 (第6図、図版4-7)**

II区G8a5で検出された。平面形は楕円形を呈すると考えられるが、規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑33 (第6図、図版4-7)**

II区G8a5で検出された。長径50cm、短径45cmの楕円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑34 (第6図、図版4-8)**

II区G8c5で検出された。形状・規模は明らかでない。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑35 (第6図、図版4-8)**

II区G8e5で検出された。長径50cm、短径40cmの楕円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑36 (第6図)**

II区G8e5で検出された。長径50cm、短径40cmの楕円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑37 (第6図、図版4-8)**

II区G8e5で検出された。長径70cm、短径55cmの楕円形を呈する。確認面で礫の他、中期中葉の土器片が出土している。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑38 (第6図)**

II区G9c2で検出された。径50cmの円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑39 (第6図)**

II区G9e2で検出された。径40cmの円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑40 (第6図)**

II区H8b1で検出された。径30cmの円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

**土坑41 (第6図、図版5-6)**

II区A14e5で検出された。径40cmの円形を呈する。時期を明らかにできる遺物の出土はなかった。

### 第3節 遺構外の遺物

遺構外の遺物にも復元により器形を窺い知ることのできるものが幾つか出土している。C6e3からは藤内式土器が出土（図版11-1）、G8e5からも藤内式土器が出土している（図版11-2）。また、G9e4からは井戸尻田式の有孔鋤付土器が出土している（第5図、図版4-3、11-3・4）。掘り下げ時には掘り込み等は確認できなかったが、何等かの遺構があった可能性もある。

## 第V章　まとめ

### 第1節　調査の成果

今回調査した尖石遺跡の北東地区は、平成3年度に調査を行った北西地区の東にあたる。北西地区と同様ここは、かつて調査が行われていない地区である。北西地区で中期初頭から中葉にかけての住居が2軒検出されてはいるものの、尖石遺跡全体から見れば北の外れにあたり、それほど多くの遺構の検出は望めないのではないかとの予測のもとに調査を開始した。

平成3年度と5年度（今年度）の調査の結果、前章までに述べてきたように、尖石遺跡の北側には中期初頭から後半に至る、かなりの規模の集落のあったことが確認された。その規模は台地南側には及ばないものの、各時期にわたって営まれたものであり、台地南側の集落の拡大、あるいは住居の移築などではなく、ある程度の継続性をもったものであり、台地南側や中央部と一体となったものと考えられる。

検出された遺構の中には、住居址3・5・14・15のように平坦面の北側斜面に近いところでも検出されたものもあった。おそらく、本遺跡と与助尾根遺跡との間の谷は現在よりもかなり浅く、斜面も緩やかであったのではないかと考えられる。

尖石遺跡と与助尾根遺跡の間は、湧水によって形成された浅い湿地状の谷によって画されているが、かつて考古館建設に際して行われた与助尾根南遺跡の調査でも、その谷に流れ込む湧水が検出されている。本遺跡と与助尾根南遺跡はこの湧水のため浸食されできた浅い谷により画されている。この谷の始まりは今述べたように尖石の北側斜面にあり、本遺跡の東側では与助尾根南遺跡と一体となっている。

尖石遺跡も近年の数次にわたる試掘調査で全体が平坦となっているのではなく、水が流れたかどうかは別として、浅い谷が2本ほど入っていることが確認されている。もっとも、尖石遺跡内に存在する谷は、いずれも小さなもので、しかもその始まりが遺跡内になるものである。現地形を見ても多少の起伏が認められる程度である。

この様な小さな谷が遺跡の立地にどの様な影響を与えたかは、今後広場地区と考えられている地点の調査を待たねばならないが、その調査結果によっては尖石遺跡も大きく3ヶ所に別れる可能性も出てきている。となれば、本遺跡と与助尾根南遺跡・与助尾根遺跡も含め、5つの東西に長い集落が、存在していたことになるのである。

## 第2節 今後の課題

尖石遺跡の試掘調査はまだ始まったばかりであり、調査の手の入っていない箇所も多い。

台地中央部の市道甲1号線からその北側にある雑司久保堰までの間は、炉址が多数検出されている。しかし調査が古くに行われており、炉址の検出を目的としていたこともある。時期を明らかにできるものは少ない。そこで来年度については、市道と堰の間に挟まれたカラマツ林を調査の対象とし、遺構の分布や時期について明らかにしていきたい。

また、從来遺跡中央の広場と考えられていた地区が、はたして本当に広場であるのか、あるいは試掘調査による推測のように、尖石遺跡を曲す深い谷になるのかといった、遺構の分布以外の微地形を含めた詳細な調査と検討が必要になってくるものと考えられる。



1. 北側調査区



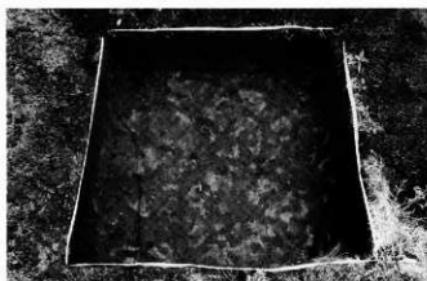
2. 南側調査区（南から）



1.住居址1 (II区C6a1) (南から)



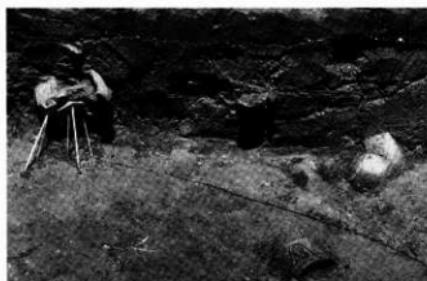
2.住居址1 (II区C6a1) 部分 (東から)



3.住居址1・2・土坑1 (II区C6c1) (北から)



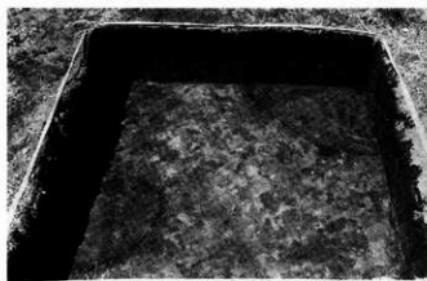
4.住居址2 (II区C6e1) (南から)



5.住居址2 (II区C6e1) 部分 (南から)



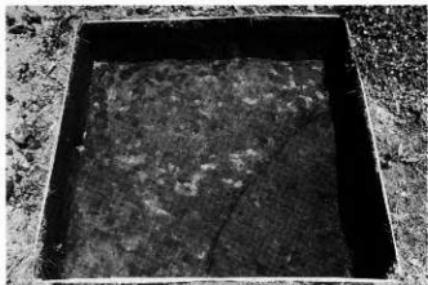
6.土坑2 (II区E6c1) (南から)



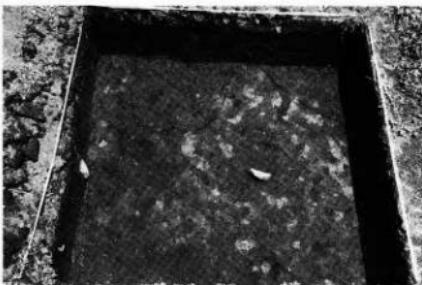
7.住居址3・土坑3 (II区D6d1) (南から)



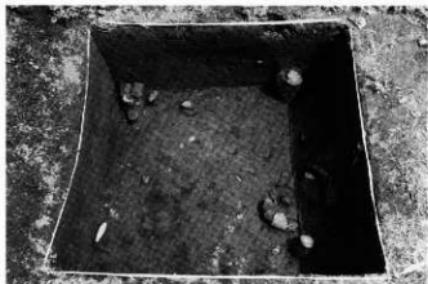
8.住居址3 (II区E6a1) (南から)



1.住居址4 (II区E8e3) (南から)



2.住居址4・土坑5・6 (II区E8e5) (南から)



3.住居址5 (II区E6e3) (東から)



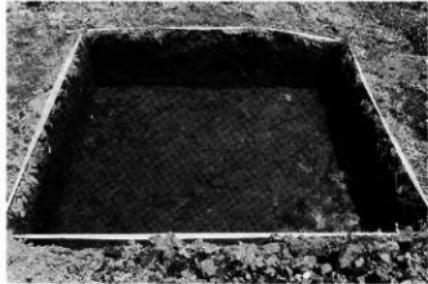
4.住居址5 (II区E6e3) 部分 (西から)



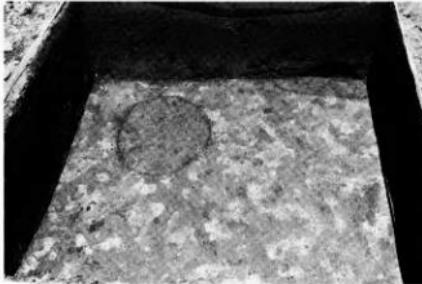
5.住居址7・8 (II区D8b1) (南から)



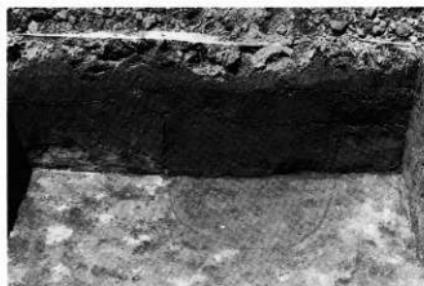
6.住居址7・8 (II区D8d1) (南から)



7.住居址9 (II区E8c1) (南から)



8.土坑8・9 (II区C7e2) (南から)



1. 土坑10 (II区 C 7 e 4) (東から)



2. 土坑17・18・19 (II区 G 9 e 4) (東から)



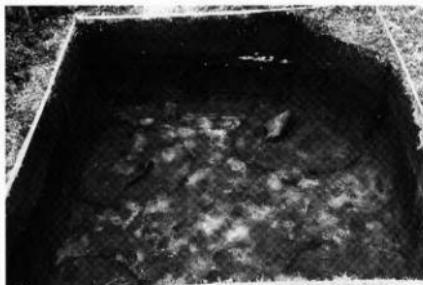
3. 有孔銅付土器出土状態 (II区 G 9 e 4) (東から)



4. 土坑21 (II区 C 8 a 1) (東から)



5. 土坑22・23 (II区 D 6 b 1) (南から)



6. 土坑25~29 (II区 E 8 a 5) (北から)



7. 住居址13・土坑32・33 (II区 G 8 a 5) (南から)



8. 土坑34・35・37 (II区 G 8 e 5) (東から)



1. 住居址14 (II区 G 8e1・G 8e1・G 7e4) (東から)



2. 住居址14 (II区 G 7e4) (東から)



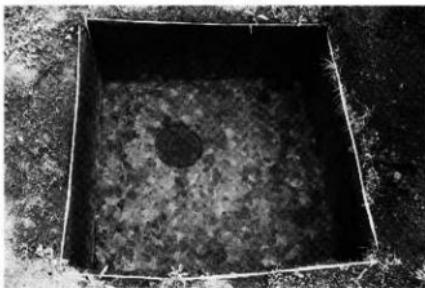
3. 住居址14 (II区 G 8e1) (東から)



4. 住居址15 (II区 H 8d1) 部分 (東から)



5. II区 A14e 3 遺物出土状態 (西から)



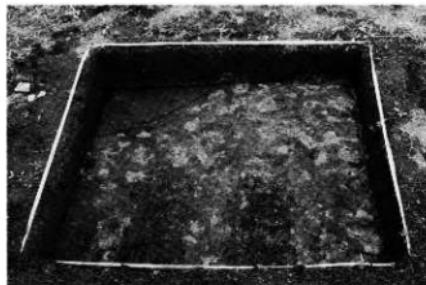
6. 土坑41 (II区 A14e 5) (北から)



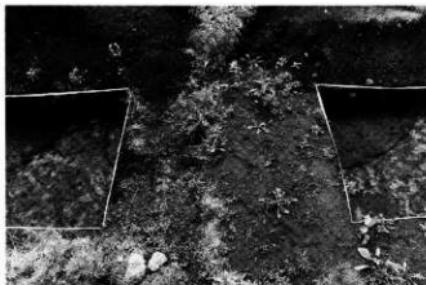
7. 住居址16 (III区 A 1e5・A 2e2) (西から)



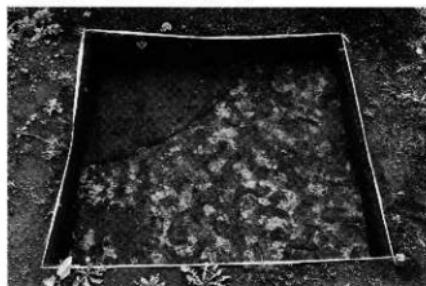
8. 住居址16 (III区 A 1e5) (西から)



1. 住居址16 (Ⅲ区 A 2e2) (西から)



2. 住居址17・18 (Ⅲ区 A 3e3・A 3e1) (東から)



3. 住居址17 (Ⅲ区 A 3e1) (東から)



4. 住居址17・18 (Ⅲ区 A 3e3) (東から)



5. 住居址1出土土器 (1)



6. 住居址1出土土器 (2)



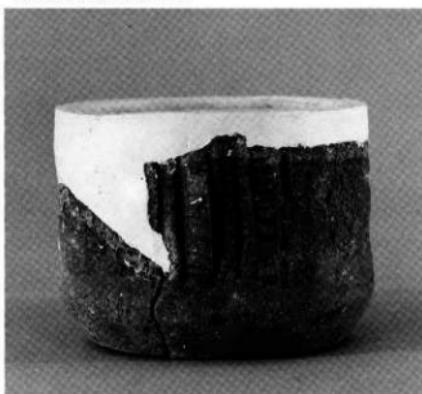
1. 住居址 1 出土土器 (3)



2. 住居址 1 出土土器 (4)



3. 住居址 1 出土土器 (5)



4. 住居址 1 出土土器 (6)



5. 住居址 2 出土土器 (1)



6. 住居址 2 出土土器 (2)



1. 住居址 2 出土土器 (3)



2. 住居址 2 出土土器 (4)



3. 住居址 2 出土土器 (5)



4. 住居址 2 出土土器 (6)



5. 住居址 2 出土土器 (7)



6. 住居址 2 出土土器 (8)



1. 住居址 5 出土土器 (1)



2. 住居址 5 出土土器 (2)



3. 住居址 5 出土土器 (3)



4. 住居址 5 出土土器 (4)



5. 住居址 5 出土土器 (5)



6. 住居址 5 出土土器 (6)



1. 住居址10出土土器（1）



2. 住居址10出土土器（2）



3. 住居址11出土土器



4. 住居址14出土土器



5. 住居址15出土土器（1）



6. 住居址15出土土器（2）



1. II区 C 6 e 3 出土土器



2. II区 G 8 e 5 出土土器



3. II区 G 9 e 4 出土土器



4. II区 G 9 e 4 出土土器 (侧面)

---

## 尖石遺跡

——保存整備事業に係る試掘調査報告書——

---

平成6年3月20日 印刷

平成6年3月24日 発行

編集 茅野市教育委員会  
発行 茅野市教育委員会  
長野県茅野市塙原2丁目6番地1号 (0266)72-2101(代)  
印刷 はおづき書籍株式会社  
長野県長野市柳原2133-5 (0262)44-0235

